



立嘉度譯草

ノ  
一  
ル  
新聞抄譯

416





114  
A 3385



通用貨幣

七二

大正十一年四月  
大隈侯爵印書贈

當國物産ノ輸出盛ナルノ時ニ方リ非常ニ為  
 替ノ騰貴セシヨリ本年日本人ノ利潤減少セシ  
 事ヲ過日論辨セリ其減少スル原因タルヤ專ラ  
 諸物品賣買上メキシコ弗ヲ以テ計算ヲ立ツル  
 ニアリ蓋シメキシコ弗ハ其供給高ニ限リアリ  
 テ非常ノ要需アルニ際シテハ甚タレキ高下ヲ  
 為スラ免レズ則チ本年ノ如キ其要需巨額ニシ  
 テ此貨幣ノ純分ニ至ツテハ本位掉銀ノ性合ヨ  
 リモ劣リテ價值モ下レルモノナリト虽氏猶同

飛翠泉

大藏省



量掉銀ノ價ニ越ユル量目每一オンス三ベンス  
 及ヘリ之レ則チ要需ノ供給ヨリ多キ確証ナ  
 リ而シテ此ノキシコ弗ノ本年日本人ノ手ニ入  
 ル數百萬ナレ<sup>内地ニ於テ</sup>通用ヲ為サ、ルカ故ニ悉ク開港  
 場ノニニ留リテ一戈モ生糸或ハ茶製出人ノ手  
 ニ渡エス夫ノ物産賣却代價ノ如キハトルラル  
 ト紙幣ト交換セサルヲ得サルカ為メ夥シキ步  
 合ヲ生スルニ至レリ既ニ近來紙幣ト正弗トノ  
 差百分ノ六ト四分ノ三ニ及ヘリ故ニ此步合ノ  
 永續スルノ間ハ百弗ノ價スル生糸茶ハ九十三

ち三

弗二十五戈トナルナリ因ラ當地ニ於テ此紙幣  
 ノ騰貴ハ内地ニ多少ノ差響キヲ起スヘキハ必  
 然ナリ看ヨ内地ニ於テ百弗ノ價ヲ拂マラシレ  
 ヲ賣却スル時ハ只九十三弗二十五戈ヲ得ル理  
 ナリ夫ノ五十弗ノ價ナル生糸ヲ輸送シ市場非  
 常ノ騰貴ノ為メ百弗ニ賣却スルカ如キハ論外  
 ニシテ夫ノ要點タル全ク百弗得ヘキモノヲ<sup>以テ</sup>只  
 九十三弗二十五戈ヲ得ルニアリ今眼前斯ノ如  
 キ形狀ナルヲ空シク傍觀シテ不問ニ據リ改良  
 ノ策ヲ試ミサルハ緩慢ノ極ト云ヘレ若シ夫ノ



為替上ノ歩合ノ如キ一萬里ノ間隔セル土地ニ  
 金銀ヲ回送セサルヲ得サルニ方ツテハ最ラ之  
 レヲ非常或ハ過當トシ怪シムニ足ラスト虽氏  
 其製出人ハ市場ヲ離ル、僅カニ百里内ニアリ  
 テ當地ヨリ郵便ヲ以テ書信スレハ三十時間ニ  
 届ルヘク又電信ハ三十分時ニ達スヘシ是レニ  
 由ラ之レヲ觀レハ今日此莫太ノ歩合ヲ生スル  
 至當ノ理由無クシテ全ク通用貨幣ノ制ヲ誤ル  
 ヨリ生シタルニシテ又他ニ理由アル能ハサル  
 ナリ

ちん

此歩合ハ政府紙幣ノ発行ヲ増加シテ初メテ減  
 少しヘキナリ即チ政府ニ於テ新タニ發行セシ  
 紙幣一弗ト引替ニ正弗一弗ヲ大藏省ニ受取ル  
 ヘシ蓋シ自他ノ原因ヲ以テ紙幣發行ヲ増加ス  
 ルハ最不策ニシテ望マシカラスト魚氏此般ノ  
 如キ確實タル原因アルニ於テハ只良ク夫ノ法  
 ニ合フノミナラス又大藏ハ勿論全國家ノ利益  
 タルヘシ何トナレハ紙幣ニ歩合或ハ割引ヲ生  
 スルハ即チ國家ノ貿易上ニ平均ヲ得ルヲ得ヤ  
 ルトニ因ラ然レハナリ若シ夫ノ割引ヲ生スル



ハ紙幣ノ供給多キニ過キ又夫ノ歩合ヲ生スル  
ハ紙幣ノ要需多クシテ之レカ不足タルニ依ル  
ナリ故ニ紙幣ノ運用繁多ニシテ之レニ歩合ヲ  
附スルニ至ルハ必然ナリ斯ノ如キ幣害ヲ防止  
セシムハ自ラ平均ヲ得テ改良ヲ要セサル通用  
貨幣ヲ造ルニアリ

現今ノ形状ハ日本人ノ為メ有害ナルヲ論セシ  
カ又之レニ及對スル形状ヨリ外國人ハ為メニ  
モ等シク害アリ現今弗ノ紙幣トノ間莫太ナル  
割引ヲ生セシ原因タル唯其供給ノ過多ナルニ

ある

因ル而シテ此供給ハ僅カニ方一里ノ中ニ累積  
シテ外國ニ積戻ヲ為スノ外一弗モ當地ヲ離去  
スル事無ケレハナリ然レトモ若今日ノ形状ニ  
及對スル時ハ甚シキ不足ヲ生シ日本人ノ取引  
上大ニ歩合ヲ附スルニ至リ随テ其要需ノ切迫  
セルヨリステラルリンク金ノ相場ヲ騰貴シ即チ  
全ク前文ト及對ニシテ今日日本人ノ墨西哥弗ノ  
過多ニ苦シム如ク外國人ニ於テ其不足ノ為メ  
大ニ苦ムナリ抑モ墨西哥弗ヲ以テ貿易媒酌適  
宜ノ貨幣ト定メタルニ當國外交ノホメ浅キノ



日ニアリシト虽モ今日ハ日本ニ造幣寮アリテ  
 内外ノ法要需ニ供スルノミナラス猶其ノ餘  
 リアリ然ル時ハ何故ニ國土ノ通用貨幣ニ非ス  
 シテ開港場ノ外ハ一里モ出サル貨幣ヲ以テ從  
 来通商シ来リシヤ且ツ其巨額ヲ要スル必需ノ  
 時ニ當リテ其供給不足スルヤ實ニ其理由ノア  
 ル所ヲ癸毛シ能ハサルナリ故ニ日本人及々外  
 國人相トモニ宜シク之レニ意ヲ留メサル可ラ  
 ス蓋シ此條理ニ及クノ形状ヲ改良スルノ策ハ  
 左ノニケ條ノ他ニ出サルヘシト我輩ハ思考ス

六

ルナリ

第一 銀貨ヲ本位ト定ムル事

第二 正金通用ニ回復ノ事即チ正金兌換

紙幣発行ノ事

第一条ノ論ニ就テハ已ニ看官ノ熟知スルカ如  
 ノ當國ニ於テ金貨本位ノ制ヲ設クル事ニ我輩  
 常ニ及論セリ夫ノ我輩ノ主論トスル所ハ東洋  
 國一般ニ銀貨ヲ以テ交換ノ媒姁トシテ通用ス  
 ルノ間ハ日本獨リ金貨本位ノ制ヲ設クルハ策  
 ノ最モ誤レルモノトスルハ必定當時ノ大藏



卿ハ英國及て米利堅ニ於テ舉行セラル事ナレハ  
其結果アラント思考セシナルヘシ而シテ其後  
任モ又日耳曼及て和蘭ノ例ヲ現テ倍々信用ヲ  
堅固ナラシメタルナルヘシ若シ日本ヲシテ歐  
羅巴州ノ内ニアラシメハ斯ク裁決ヲ為スハ最  
モ良策ナルヘシト虽氏當國ハ猶東洋ノ一國ノ  
ニ云々

曩キニ重立タル貿易國ニケ同英米ノ既ニ舉行シ  
近來又一ノ貿易國和及て英敏ナル國日耳曼ニ於  
テ之レヲ舉行セント決意セシハ敢テ不策ニア

七

ラスシテ歐羅巴州中ニ在テハ之レヲ英断ト謂  
フヘシ然レ氏日本ハ英國及て合衆國ト其外見  
ノ地位ヲ同フセシ事ヲ望ムカ故ニ英島本ノ舉行  
セシ事ヲ欲サント欲シテ恐ラク之レニ甚シク  
感動セシモナルヘシ若シ該島ノ人民ハ英人ノ  
鋭敏ナル氣象ヲ帯ヒタルト仮想スル時ハ此裁  
断ニ就テ其誤レルヲ知ルモ獨斯ク曰ハン他國  
其好ム所ニ從ワテ事ヲ処スヘシ毎樽々各自  
底アリト此例言良解スヘキニ云々



世界萬國ノ形状ヲ見ニ動カハ是ヲ立サハ  
 へカラズ然レニ我輩ハ只擬似ノ為ニ英國或ハ  
 其他ノ国ニ倣フヲ望マサルナリ現在ニ來ル  
 位金貨及ニ金貨鑄造ハ何地ニアリヤ金貨四分  
 ノ三ハ既ニ鎔解シテ其形チラ残サス此造幣ノ  
 費ハ終世國家ノ損失タリ蓋シ銀貨本位ノ理論  
 モ粉々無キニハアラサリシモ終ニ行ハレス今  
 日ニ至ツテ其論ノ正否ハ己ニ實際ヲ以テ證明  
 スルニ足レリ而メ政府ハ猶此失錯ヲ堅ク守リ  
 テ變セサルカ畢竟忠言ヲ採ラスレテ庸醫ノ手

ちん

ニ陥リ其貨幣ヲシテ悉ク濫出セシムルニ及ベ  
 リ云々  
 外國人民ハ其貿易上日本ノ正貨幣ヲ悉トシ策  
 ラ立ツルニ議ヲ決スルノ以前其通用貨ノ純分  
 及ニ量目ニ就テ確實タル保証ヲ受ケサル可ラ  
 ス己ニ一時ハ其確實タルノ証ヲ得タリ因テ斯  
 クノ如キ方法ヲ以テ其確証ヲ示スニ於テハ  
 那及ニ印度ニ之レヲ通用セシムル又其ニ  
 三サルベシ然レハ造幣寮カ日本長官ニ問  
 ハシレ等ノ事ヲ切ニ答ムモ到  
 無益ナルヘン



蓋シ該件ニ至ツテハ、疑フヘキ夢影  
 外ニ至ラサルナリ  
 外國ノ造幣商長ヲ雇役スルカ為メ何  
 本ノ榮譽ヲ損フヤ既ニ日本ノ貨幣ヲ海外ニ  
 テ受納スツモノ無キヲ見レハ却テ榮ヲ損フニ  
 アラスヤ上海香港新嘉波ベナンニ於テ日本其貨幣  
 ヲ擧省ハモル無キヲ敢テ意トセサルカ我輩ノ眼  
 ヲ以テスレバ、實ニ忍フベカラサルノ恥辱ト考  
 ルナリ

日本政府ノ貨幣ヲ以テ東洋諸國ニ信ヲ執ルヲ

ち九

意トセサルカ而シテカ為メ國家ノ信用ト名  
 譽トテ擴張スルニ至ルモ擱ラ向ハサル乎蓋シ  
 其切驗タルヤ一朝ニシテ見ルヘカラスト臣凡  
 四ニ必ス數年ヲ期セシテ見ルヘキナリ且ツ  
 其貨幣ハ國地ヲ去ル事ナク又海外ニ在ラ通用  
 スルニ至レハ日本ハ之レヲ輸出シテ利益ヲ得  
 ヘシ然ル時ハ夫ノ貨幣ハ東洋中ニ要需アル  
 ノ製造物トナルナリ故ニ永世無益ナク白身  
 捨テ現在透明ナル國益ヲ執ルハ又信實ヲ愛國  
 心ナラスヤ







